



お茶の間 PRESS

あいち民主

2023.9 発行

編集/発行 高橋正子事務所
一宮市大宮 1-3-6 グランドメゾン大宮 1F
TEL(0586)71-2900

愛知県議会

愛知発の新しい学び方

愛知県 休み方改革 プロジェクト

- ～ワークライフバランスの充実と、生産性向上による日本経済の活性化～
- 土日祝日など特定の日に国民が一緒に休むのではなく、企業や個人単位で休日を柔軟に設定できる環境づくり
- 平均取得率6割程度に止まる有給休暇の取得を推進
- 祝休日に仕事をする親の休みに子どもが学校を休め、家族で活動できる仕組みづくり

「ラーケーションの日」を導入!

家族で活動をする機会をつくろう!

保護者の平日休みに合わせて子どもが学校を休み、家族で活動する機会をつくる新しい制度「ラーケーションの日」を導入。

ラーケーションは、「ラーニング(学習)」と「ケーション(休暇)」を組み合わせた造語で、年3日休みを取得でき、欠席扱いにはならない。授業を受けられなかった子どもは家庭で自習することとなり、事前に休む日取りを学校に届ければ家族で旅行に出かけられる。

親の業種や職種によって祝休日が仕事の場合は家族と一緒に過ごす時間がつくりづらく、また祝休日に一緒に休む習慣が観光需要を集中させ、質の高い休暇を楽しめないという問題意識もある。

県は毎年11月27日を「あいち県民の日」、11月21日～27日を「あいちウィーク」とし、期間中の一日だけ公立学校が休日となる「県民の学校ホリデー」を創設する。



令和5年6月定例会議 で一般質問しました



若年女性の東京圏流出に「待った!」をかける 県内就職促進への取組について

本県の女子大学生は、就職時に「ものづくりのイメージが強い愛知では女性が働く場所がない」との理由で、やりたい仕事を求めて東京圏へと転出する傾向が止まらない。そこで、愛知の企業を就職先に選んでもらえるための製造業の魅力発信や、製造業＝「男性が主力の職場」という無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)の払拭など、本県の女子大学生の東京圏への転出に「待った」をかける取組について質問。

A 本県のモノづくり企業において、女性が活躍できる仕事がたくさんあることを若い女性にもっと知ってもらえるよう、「あいち女性輝きカンパニー」のPR、その魅力発信に引き続き取り組む。また、モノづくり企業で活躍する女性の事例を積極的に発信し、採用に効果的な取組事例も紹介していく。

「愛知の温泉資源を保護するための現状の取組」について

コロナ禍で苦境の温泉地で今、温泉の湯量が減少したり、湯温が低下したりと、異変が起きている。今から20年前、温泉ブームから過剰な掘削により温泉が枯渇する事例が全国で相次いだ。本県でも吉良温泉で天然温泉偽装問題が発覚したことをうけて「愛知の温泉」の現状について一般質問した経緯から、今回、有名温泉地での相次ぐ源泉の異変を耳にし、「愛知の温泉の現状はどうか?」質問。

A 全ての温泉事業者を対象に年一回実施している立入調査において、湯量、温度のほか、10年毎に事業者が実施する温泉成分再分析の結果などについて聞き取りを行っている。この20年間、湯量や温度、成分などに大きな変化は見られず、温泉事業者からも温泉成分の変化や源泉の枯渇に関する相談なども受けていない。

高齢化する県営住宅への「単身学生入居」の検討について

入居者の高齢化により、自治会運営の滞りが課題となっている県営住宅で今、自治会活動に参加してもらうことを条件に、大学生には格安家賃で入居してもらおう取組が全国で広がっている。この自治体も双方がウインウインと好評で、本県でも県営住宅への「単身学生入居」を検討してはどうか?質問。

A 大学が近接し、空き住戸がある県営住宅の自治会に対して、学生受け入れの意向と学生に期待する役割の調査を行うとともに、大学側に対しては、県営住宅への入居のニーズの有無などについて聞き取りを行なう。その上で、県営住宅供給公社と連携し、他の自治体の事例も参考にしつつ、「地域対応活用」による学生入居について具体的な検討を進めていく。

ジブリパーク 第2期エリア

「もののけの里」が2023年11月1日開園!!!



「もののけの里」は、あいちサトラボと一体となった体験の場。映画『もののけ姫』に登場する和風の里山の風景をイメージした「もののけの里」では、体験学習施設「タタラ場」において愛知県・奥三河地域を始めたとする中部地方の山間部発祥の郷土料理「五平餅」作り体験ができるほか、「乙事主(おっことぬし)」の遊具では、子ども達が滑り台として遊ぶこともできる。

「魔女の谷」は2024年3月16日にオープン決定!



そして来春に開園する「魔女の谷」は、魔女にまつわる作品の世界をイメージしたエリアで、ヨーロッパ風の雰囲気味わえ、ジブリ作品の体験を通じた展示と遊び、休憩などの複合的空間でレストランも併設。いよいよ「魔女の谷」のオープンで、ジブリパーク全エリアが開園する!

*ジブリパーク全体の大規模メンテナンスのため、2024年2月13日(火)～3月15日(金)までは休園。

中央道にインターチェンジ付き新しい商業施設! 「小牧オアシス」が来秋オープン予定!



建設地は小牧市大草地区「市民四季の森」の東側にあたり、高速道路のパーキングエリアかつ、一般道からの入場も可能。事業主体は株式会社オアシス小牧。民間高速道路利便施設として、全国で初めて土地建物道路すべて民間所有のインターチェンジ付きサービスエリアと公園・遊園地の複合商業施設を建設中! 敷地面積はバンテリンドーム5個分で、高速道路休憩施設とオアシスパーク施設に分かれる。観光と交通、物流に加え、地域の産業や文化の発展も期待でき、さらに安心・安全の観点からも防災機能を備える新たな高速道路の可能性を創出する。

- オアシスパーク施設**
- スケートボードパーク●アーバンスポーツエリア●スポーツライミング●室内スポーツ・レジャー●日本ゲーム博物館●ジップライン●レストランマルシェ●温浴施設●BBQ(スケート)●巨大迷路●屋外ステージ、芝生広場●公園
- オアシスパーク施設**
- レストラン●コンビニエンスストア●フードコート●エネルギースタンド

名神高速「尾張一宮PA(下り)」がリニューアル! フードコートは「名古屋めし」がズラリ!



スマートインターチェンジ構想のある、名神高速尾張一宮パーキングエリア(下り)の商業施設が2023年8月1日にリニューアル。目玉は、フードコートで「なごやめし」の味わえること!

一般道からも入場できる!

- ◆フジヤマ55台湾まぜそば 辛口(値引付き) (¥990)
- ◆ヨコイのあんかけスパゲッティ「ミラネーズ」 (¥1,060)

(営業時間)7:00～21:00

自社栽培の愛知の酒米「夢吟香(ゆめぎんが)」を使用! 地産地消とSDGsに取り組む、江戸時代からの日本酒蔵。

●醸造家 後藤実和さん
大学時代は日本酒研究会のサークルに所属し、水谷政夫社長が一人で酒造りを続けていた水谷酒造に魅せられ入社。

江戸時代末期に創業した200年あまりの歴史をもつ小さな日本酒蔵。「千瓢(せんびょう)」というブランドは、戦国時代に日本統一をした郷土の英雄「豊臣秀吉」の馬印が「千成瓢箪」だったことに由来。清らかな木曾三川の伏流水に濃尾平野から獲れる良質な原料米、そして冬には「伊吹おろし」が吹くことが、酒造りには好条件だという。今なお江戸時代から続く蔵を使用し、機械に頼りすぎず手仕事で伝統の味をつくりあげるのは、杜氏である水谷政夫社長と若き女性蔵人・後藤実和さんの二人。

◆千瓢 爽(かなで) 純米大吟醸720ml/4,180円

地産地消 原材料はすべて愛知産

消費者参加型で「食育」をテーマにしたお酒「千瓢 爽(かなで)」は、酒米は自社で育てた愛知の酒造好適米「夢吟香(ゆめぎんが)」、愛知県酵母F1A3を使用するなど原材料はすべて愛知産!

また、水谷酒造はSDGsの理念から、食品残渣を堆肥にして育てた「あいちのかおり」を使った純米酒を、Rマークが特徴のリユース瓶に詰めた循環型社会の実現を目指したお酒も。毎年、時期に応じて米つくり体験や日本酒作り体験、酒蔵見学も一般向けに開催しているので、希望者は問い合わせを。

文化の伝統を体験

日本酒 作!

金銀花酒造

江戸時代から続く一宮市内で唯一の酒蔵「金銀花」で、手軽に自分だけの日本酒作り体験ができる! 通常の日本酒製造工程を簡略化し、酒米2種類をブレンドし、酵母を加えて仕込みから3～4週間で「純米生酒」を完成。

また、美肌効果の高い日本酒を入れた「石鹸作り体験」(体験料1人¥700)もでき、両体験は愛知県の公式観光ガイド「Aichi Now」でも紹介。

◆日本酒作り体験 1人¥3,500 (日本酒350mlと酒粕200g) 3週間前までに予約が必要。

※11月30日までの限定で1人¥4,000で日本酒350mlが2本と酒粕200g付き!

日本酒 石鹸作!

◆日本酒作り体験 1人¥3,500 (日本酒350mlと酒粕200g) 3週間前までに予約が必要。

※11月30日までの限定で1人¥4,000で日本酒350mlが2本と酒粕200g付き!

あめ細工

あめ細工作家 きたきや キタコさん

◆体験教室は初心者向きで、動物やバラなどのあめ細工作りでチャレンジできる。体験料は一人¥3,500～(1グループは1～4名まで)

あめ細工作家きたきや

あめ細工は江戸時代中期から続く日本の伝統工芸で、職人芸「あめ細工職人」は現在、日本に100人もいないそう。その中で東海地方で唯一のあめ細工作家が一宮市今伊勢町の「きたきやキタコ」さん。日本伝統館細工協会に所属し、各地での館細工実演パフォーマンスのかたわら、一宮市であめ細工教室も開催する。あめ細工は、熟してやわらかした水飴に食用色素をいれて色を付けながら、手や握りばさみで細かい細工をほどこしバラやうさぎ、ペンギン、イルカなどさまざまなカタチを作り上げる。

◆あめ細工の体験申込は、「じゃらん遊びサイト」で、「じゃらん・あめ細工・きたきや」で検索を。

日本酒 作!

一宮市今伊勢町馬寄 山之小路19 TEL(0586)73-3282 *体験コースは酒造り繁忙期の12月はお休み

日本酒 石鹸作!

日本酒学講師・兩酒師 佐藤博子さん

あめ細工

一宮市今伊勢町宮後郷中426 有限会社キタザワ内

折紙アート 連鶴

折紙アート作家 折屋和美さん(右)

わくわくワークSHOP

名鉄百貨店一宮店5階の「わくわくワークSHOP」では、こだわりのハンドメイドが体験できる15アイテムのワークショップがあり、誰でも気軽に一日体験できる。中でも日本の伝統工芸の体験教室「友禅和紙の連鶴」(所要時間40分・体験料2,970円(税込))や「水引のストラップ作り」は珍しい!

連鶴は、一枚の紙からたくさんの鶴をつなげて折り上げる独特の折り紙で、三重県桑名市の僧侶が200年以上前に考案し、今なおこの独自の折り紙作りが「日本人の願いを込める幸せの折鶴」として伝承され続けている。

9月27日以降は、5階から2階へ移設!

※体験メニューの開催・参加予約については問い合わせを。
(問い合わせ) わくわくワークショップ 担当/内藤さん TEL090-4388-6466